①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・畳の枚数と人数の具体をもとに混み具合を説明できる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・本単元で，「希望者の割合の1.8は，定員を1としたとき，希望者が1.8の大きさにあたる」ことを学習している。

教材研究ノート№5-C-1

≪学習問題≫

どの部屋がいちばん

混んでいるのかな。

・Ａ室とＢ室

・Ｂ室とＣ室

・Ａ室とＣ室

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

Ａ室

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |
|  |  |

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

Ｂ室

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |
|  |  |

Ｃ室

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |
|  |  |  |
|  |
|  |  |

②見通し：Ａ室とＣ室では，畳の数も人数も違うので比べられない。

→畳の数と人数のどちらかをそろえればよい。

②学習課題：畳1枚を何人で使うかを求めたり，1人で畳何枚を使うかを求めたりして，Ａ室とＣ室の混み具合を比べよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：部屋を区切ったり畳を分配したりして，畳１枚あたり，1人あたりの数を比べる。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「2つのやり方に共通したよさはなんだろう？」

→「1を基準にして，1あたりの数で比べている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「1人1枚畳を使うと考えると，余る畳の数がＡ室は4枚，Ｃ室は3枚になるから，Ｃ室の方が混んでいるのではないだろうか？」

→「余った畳をまた部屋の人数で分けていくと，1人あたりの枚数で比べるやり方になる。」

「1人が使う畳の枚数が同じになるように，ならして考えればよい。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・畳や人の数が違っても，畳1枚あたりの人数や1人あたりの畳の枚数を求めれば，混み具合が比べられる。

・単位量あたりの大きさは，すべてに同じ人数がいると考えるとわり算で求められる。

⑥定着･活用問題

(1)Ｂ室の混み具合をＡ室，Ｃ室と比べよう。

(2)畳1枚あたりの人数が0.5人の部屋がある。この部屋の1人あたりの畳の枚数は何枚かな。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・畳の数か子どもの数の一方をそろえれば比べられるという見通しをもたせるために，Ａ室とＢ室，Ｂ室とＣ室の混み具合を比較する際に，畳の数や子どもの数がそろっていることを意識させたい。

・もし畳が40枚ならば…，もし子どもが30人あれば…，と考えて畳や子どもの数をそろえた考え方も，そろえて比べるという考え方として大切に扱いたい。

【板書計画】